帰国研修員便り

【帰国研修員の現地活動状況】

母国（コソボ）で Work Shop を開催
した帰国研修員の皆さん

１）現地レポート：　照井　加奈子　氏
（コソボ在住　JICA　専門家）

２）技術研修担当：　末田　元
（コースリーダー）

２０１５年３月２０日

（公財）北九州国際技術協力協会　研修部

JICA/KITA 技術研修コース終了後、コソボ／帰国研修員が現地で開催したワークショップについて JICA 照井さんから便りが届きました

今回、ご紹介する帰国研修員便りは、昨年（平成 26 年）のＪＩＣＡ国別研修コース第２回「コソボ下水道対策能力向上」に参加された研修員皆さんの母国での活動状況です。
コソボ在住の JICA 専門家／照井さんから JICA 九州宛に現地情報が届きましたので活動状況をご紹介します。

１．コソボ現地でワークショップを開催した研修員の皆さん

JICA/KITA 研修コース名	第２回 下水道対策能力向上
研修時期	2014/10/16 ～2014/11/08
参加人数	10 名
コソボから派遣された研修員の皆さんが、北九州市（ＪＩＣＡ九州）に集まり下水道に関する技術研修に参加しました。	

コソボ研修員の皆さん

【 研修コース「**コソボ下水道対策能力向上**」 閉講式の記念写真 】 2014/11/07

≪末田　元コースリーダーからのメッセージ≫

この研修は今回で二回目です。第一回目の研修の時も母国に帰られワークショップを開いてくれました。前回同様、研修員が全員一堂に会し、それぞれがテーマを定め発表をしてくれました。日本で受けた研修内容を聴衆の前で発表するには自分なりに研修内容を理解しておかなければなりませんし、自分の国の状況に参考になる内容を組み込まなくてはなりません。そういう意味で、研修成果を発表するということはただ単に学んだ内容を発表するというだけでなく、研修内容をおさらいし、自分のものにできるものは何かを考えさせてくれる非常に重要なことだと思っています。

そのような努力を今回も全員が行ってくれました。多分、この事前準備のために全員が何度も集まり、発表内容の調整、ワークショップのあり方などを協議してくれたのではないかと思っています。非常にありがたいことで、研修を担当した私として感無量です。

今回、コソボ在住のＪＩＣＡ専門家である照井さんから情報提供を受け、このようにワークショップ内容を披露することができました。掲載についてご了解をいただき、ありがたく思っています。二回目研修の研修員代表を務めてくれたヴェビ（Vehbi）さんからもこのワークショップの状況を報告してもらうことにしています。照井さんとはまた違った視点で報告がなされるのではないかと期待しています。今回と同じような方法で皆さんにご紹介できればと考えています。

研修員の紹介（研修コース期間中の写真）

研修員と関係者の紹介
（後列：左より）①ヴァルデット、②ベサリ（通訳）、③アグロン、④ラマダン、⑤サラ、⑥ルミ、
⑦ドレシャ、⑧スケンデル、
（前列：左より）⑨末田コースリーダー、⑩レリ、⑪田中講師、⑫ブレリム、⑬ヴェビ

３．照井さんからのレター

現地在住の照井さんから JICA 九州宛に届いたレター(e-mail)の内容です。

～～～～～～～**メール**～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

先日（3 月 5 日）、現地で第 2 回研修員グループによる帰国発表が行われました。
その様子について共有させていただきます。

各メンバーが項目毎に日本の様子、コソボの現状、そしてコソボですべきことについてプレゼンテーションを行い、参加者と意見交換しました。また、セミナー終了後にメンバーの提案により、参加者アンケートをとり、参加者の意見についても取りまとめました（こちらについては、後日メンバーからも末田さんに連絡するということでした）。添付の一つはセミナーアジェンダになります。

現地では関係者（首相府のアドバイザーや他ドナー関係者からも）より JICA 研修について評価してもらっていると共に、記事にも書きましたが、今年に入って発表されたコソボ政府プログラムにも下水セクターが明記されており、今後とも引き続き研修や技術協力を通じてコソボの下水処理対策について、他ドナーとの連携をはかりつつ現地関係者の能力強化に貢献していければ、と考えております。

来年度は前半に本研修の最終回が予定されておりますが、ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

～～～～～～～**添付資料**～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

国別研修「下水対策能力向上」帰国セミナー

2015 年 3 月 5 日、首都プリシュティナで、国別研修「下水対策能力向上」帰国セミナーを開催しました。雪混じりの雨が降る寒い日となりましたが、本セミナーには、関係各機関から合わせて 63 名の参加がありました。

本セミナーでは、2014 年 10 月から 11 月にかけて北九州で実施された第 2 回目の研修に参加した、経済開発省、廃棄物・下水規制事務所、5 つの水公社（プリズレン、フェリザイ、ジラン、ペヤ、ジャコバ）職員ら 10 名が、下水道事業や排水設備、汚泥処理、浄化槽、水質汚濁規制などについて、日本で行われた講義や現場視察、実践を通じて学んだことを発表、今後コソボの下水対策において取り組むべきことについて参加者と意見交換を行いました。

興味深かった発表には、日本の事例として、汚染対策における市民、地方行政、民間の連携による改善の成果；汚泥処理の仕組み；下水管渠の修理や交換方法のほか、浄化槽をコソボの山間部の村で使った場合のメリット、下水質モニタリングの講義に基づいて一部地域で実施した水質調査の結果発表などがありました。
意見交換で参加者が活発に議論していたのは、下水道料金体系についてでした。コソボでは現在、下水収集のみ料金が収集されていますが、今後の処理施設の稼動に伴い、維持管理費などが料金に含まれるようになり、市民の負担が増えることになります。経済状況が低迷するコソボでは、月数ユーロでも負担が増えることに市民の理解を得ることは難しく、今後下水処理の必要性を、行政だけでなく、市民にも分かりやすく説明していく必要がある、という点について研修員らが参加者に理解を求めました。

他に、汚泥処理についても意見交換がなされました。コソボでは、つい最近汚泥処理に関する規定が設けられたようです。研修員はこれに先立って日本の仕組みを実際に見聞きしてきたわけですが、汚泥のエネルギー

利用やバイオマス利活用など、進んだ技術や取組みは理想であるものの、コソボでの汚泥の再利用については基礎的なところから調査し、検討していく必要がある、という意見を参加者と共有していました。

セミナー終了後のアンケートを集計したところ、参加者からは、「日本の下水対策の様子とコソボの課題の比較が興味深かった」「コソボでの汚泥処理の今後の課題、下水パイプの維持管理、下水質の分析についてもっと知りたい」「土地柄や放流される下水のタイプによってどのような下水処理技術を選ぶべきかについて学びたい」という感想が寄せられました。

下水対策はコソボ政府が最近発表した政府プログラムでも課題の一つとされています。スイスやドイツがインフラ開発支援をリードしていますが、水公社職員の日常の維持管理や行政、広報のあり方など、JICA の研修が関係者の能力強化に役立っており、継続して人材能力強化に協力してほしい、と首相府所属のアドバイザーらも評価してくれています。

本研修は来年度で終了になりますが、下水対策分野では継続してコソボ機関の能力強化に貢献していくことが期待されています。

日　時:	2015 年 3 月 5 日
時　間:	13:00-16:00
場　所	Hotel “Royal”- Prishtinë/Pristina

＝ワークショップの議題＝

時間	発表題目	報告者（ニックネーム）
13:00-13:05	研修員の紹介	サラさん
13:05-13:10	開会挨拶	照井氏 JICA
13:10-13:15	研修事業の概要	サラさん
13:15-13:30	コソボの下水道事情	ラマダンさん
13:30-13:45	日本における下水処理場の形式	ヴァルデットさん
13:45-14:00	日本における下水管渠の維持管理	ドレッシャさん
14:00-14:15	北湊浄化センターにおける下水処理及び汚泥処理	ルミさん
14:15-14:30	浄化槽システム	スケンデルさん
14:45-15:00	下水の水質管理	ブレリムさん
15:00-15:15	プリズレン市における下水処理場導入状況	ルリさん
15:15-15:30	ペヤ市における下水処理場導入計画	アグロンさん
15:30-15:45	日本における下水道使用料金	ヴェビさん
15:45-15:50	総括	ラマダンさん

●帰国研修員の全員（１０名）がアクションプランを発表しました。

ワークショップの会場風景

セミナー説明をする経済開発省のサラさん

ドイツ支援による下水施設事業の様子を説明するルリさん

山間部の村で浄化槽を取り入れたら、という発表をするスケンデルさん

北湊浄化センターの下水処理について説明するルミさん

下水パイプの維持管理について説明するドレッシャさん

発表を聞き入る参加者の皆さん